

待つ

山口県 防府市立桑山中学校 3年

澁澤 佳奈実 (しぶさわ かなみ)

私の祖母は、目があまり見えていません。視界の中心が見えないという目の病気です。私はこの祖母と、週末になるとスーパーに買い物に行きます。

スーパーに行くと、祖母が探している品物のところに行きます。そこでは、やはり、祖母の視力では、知りたい品物の情報が読めないことがよくあります。祖母は、ここ最近耳も遠くなっています。ですから、私が文字を祖母の耳の近くで読むのです。すると、いつも「ありがとうございます。」と祖母は言います。祖母は、私のことをとても頼ってくれています。

他にもスーパーに行くと困ることがあります。それはお金の支払いです。レジの店員さんから言われる値段が、よく聞き取れないことと、お札や小銭を取り出すのにとても時間がかかることです。ある日、こんなことがありました。祖母がレジで、一枚ずつ小銭を財布から出していた時です。祖母の後ろに並んでいた人が、「チッ。」と舌打ちをしたのです。横目で見ると、靴底で床を蹴り、せわしなく貧乏揺すりを始めました。祖母の会計が遅くて、イライラしている様子がはっきりと伝わってきます。私は焦り、祖母から財布を預かると、急いでお金を支払いました。「なぜ、待ってもらえないのか。誰もが同じように素早くお金が払えるわけではないのに。」と、とても悲しい思いをしました。

しかし、別の日、こんなことがありました。その日は特にレジが混んでいました。その時の私には、あまり心に余裕がなかったのだと思います。レジで支払いをする祖母の後ろに、長く列が続いていました。それを見た私は、つい焦ってしまい、一人でお金を払おうとしていた祖母に言いました。「おばあちゃん。もうちょっと急いでよ。」と。すると、祖母の後ろに並んでいた一人のおばあさんが言われました。「そんなに急がんでもいいよ。あんまりあなたのおばあさんを急かさないであげて。」私はその時、気が付きました。自分がしたことは、前にスーパーで出会った舌打ちをした人と同じだということにです。なぜ、あのようについ口調で言ってしまったのか、待つことができなかったのか、自分を責めました。その日祖母は、いつもの「ありがとうございます。」ではなく「ごめんね。」と言いました。自分の中で、恥ずかしい気持ちと悲しい気持ちが渦巻いていました。

私は祖母と一緒に生活することで、大切なことを学びました。それは「待つ」ということです。自分の心に余裕をもって、急かすのではなく、相手を「待つ」ということが大切だということ。誰もが同じようにできるわけではないこと

に気付かなければなりません。時間がかかる人も当然いるのです。祖母の後ろに並んでおられたおばあさんは、その後ゆっくりと会計をされていましたが、誰も急かす人はいませんでした。この、「待つ」ということは高齢の方だけでなく、小さな子どもや障害のある方にも通じるものだと思います。

他にも考えさせられたことがあります。これも会計の時の出来事です。いつものように私が支払いを手伝おうとしました。すると祖母から「一人でもできるよ。」と言われたのです。お金を支払うときの手伝いは、特に頼まれたわけでもなくしていました。この行為は、「おばあちゃんが困っている。」という私の判断や、「早く払わなければ。」という私の焦りからくる行動だったと思うのです。祖母の人権を尊重しての行動ではありませんでした。人の人権を尊重することと、人を手助けすることとは全く違うことに気が付いた瞬間でした。私は自分の思い込みで行動してしまい、親切を祖母に押しつけるような形になっていました。祖母のできることまで、待たずに奪っていたこととなります。相手の気持ちをよく考え、お互いに気持ちよく支え合うことが大切なのだと思います。

もう一つ、祖母に教えてもらったことがあります。祖母は、いつも顔を合わせる度に声をかけてくれます。そして、私が何かするとすぐ、「ありがとうね。」という言葉返してくれます。この声掛けは、気持ちを温かくしてくれます。祖母は、私たち家族にとってもよくしてくれます。でも、私は母に言われないと「ありがとう。」と感謝の言葉を伝えるのを忘れてしまいがちです。感謝の言葉に限らず、挨拶は相手のことを確認し認める行為だと聞いたことがあります。そうならば、相手に感謝の言葉をかけたり、挨拶をするということが、相手の人権を尊重する第一歩ではないかと思いました。それなら私にもできます。人権の尊重と聞くと、何かとても難しいことのように感じていましたが、こんな身近なところでも人権尊重の精神は生かせるのです。

私は祖母から、皆がもっている人権を大切にすることを沢山もらいました。このヒントを無駄にしないよう、私にできることを一つずつ実践していきたいと思います。